

令和5年度 居住支援全国サミット

2024年3月11日

熊本市居住支援協議会 副会長
(一社)熊本県賃貸住宅経営者協会事務局長
大久保秀洋

災害（熊本地震）時の被災者支援 そこから見えてきたもの

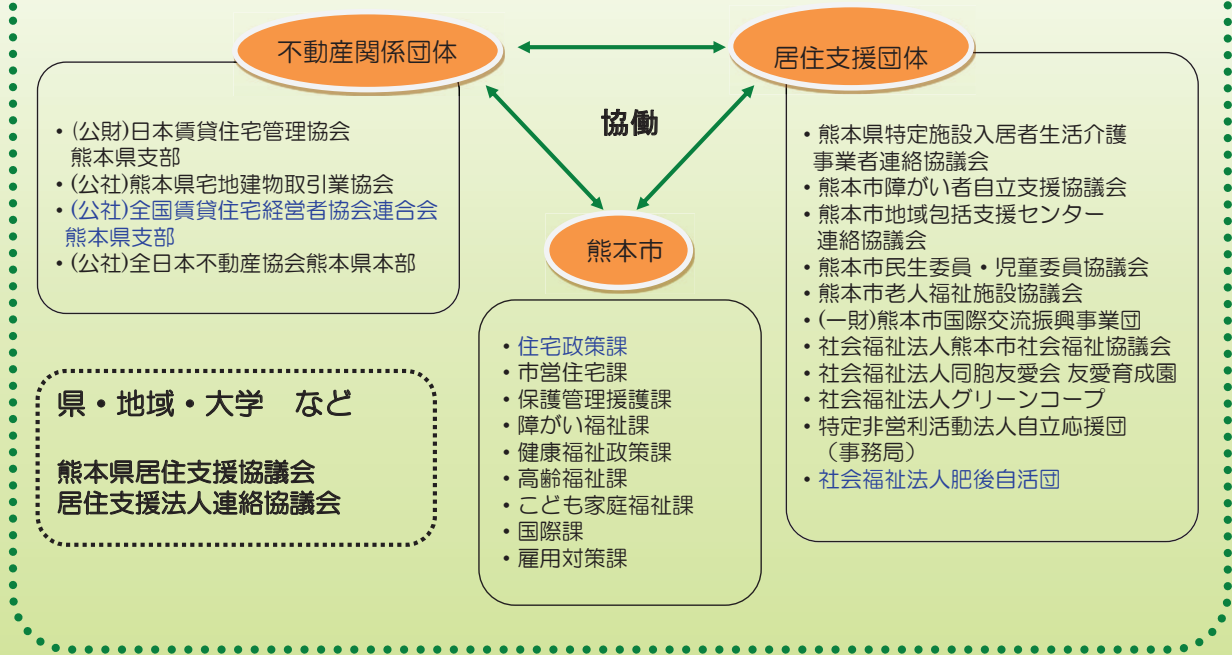
【災害時の居住支援協議会の活動実績】

1. 平成24年7月九州北部豪雨時の対応
2. 熊本地震時の対応

【災害時に居住支援協議会の果たす役割】

1. 様々な被災者支援で行政や福祉関係者は手一杯
2. 災害時は住宅確保要配慮者が取残される
3. 被災者のコミュニティの維持、再構築
4. 災害時に居住支援協議会が真価を発揮するために
5. 災害時への備えの重要性（居住支援の仲間）
6. まとめとして最後に

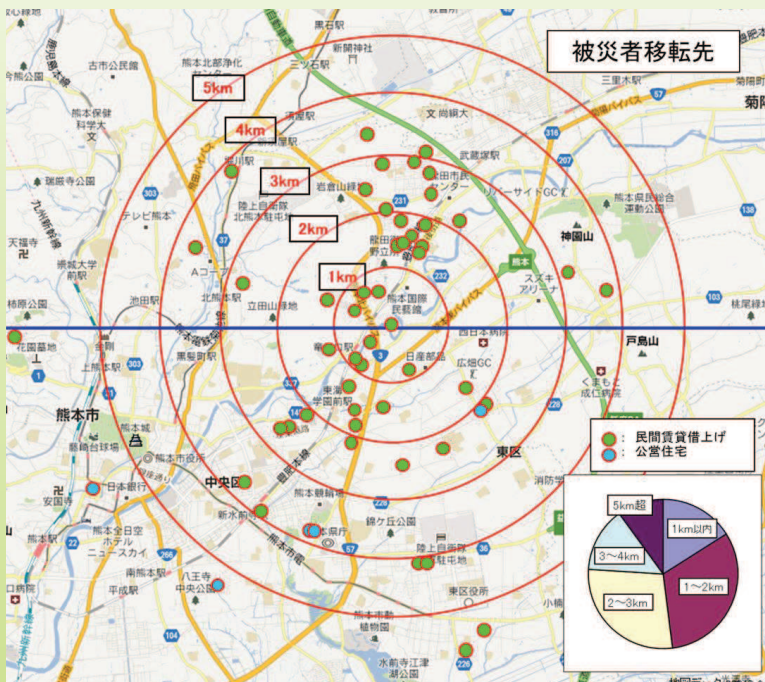
熊本市居住支援協議会



2

【災害時の居住支援協議会の活動実績】

1. 平成24年7月九州北部豪雨時の対応



2012年7月12日白川氾濫

被災地域近くの市役所竜田出張所に相談窓口を設置

7/17~8/12

2名体制

- ・熊本市居住支援協議会
- ・熊本県賃貸住宅経営者協会

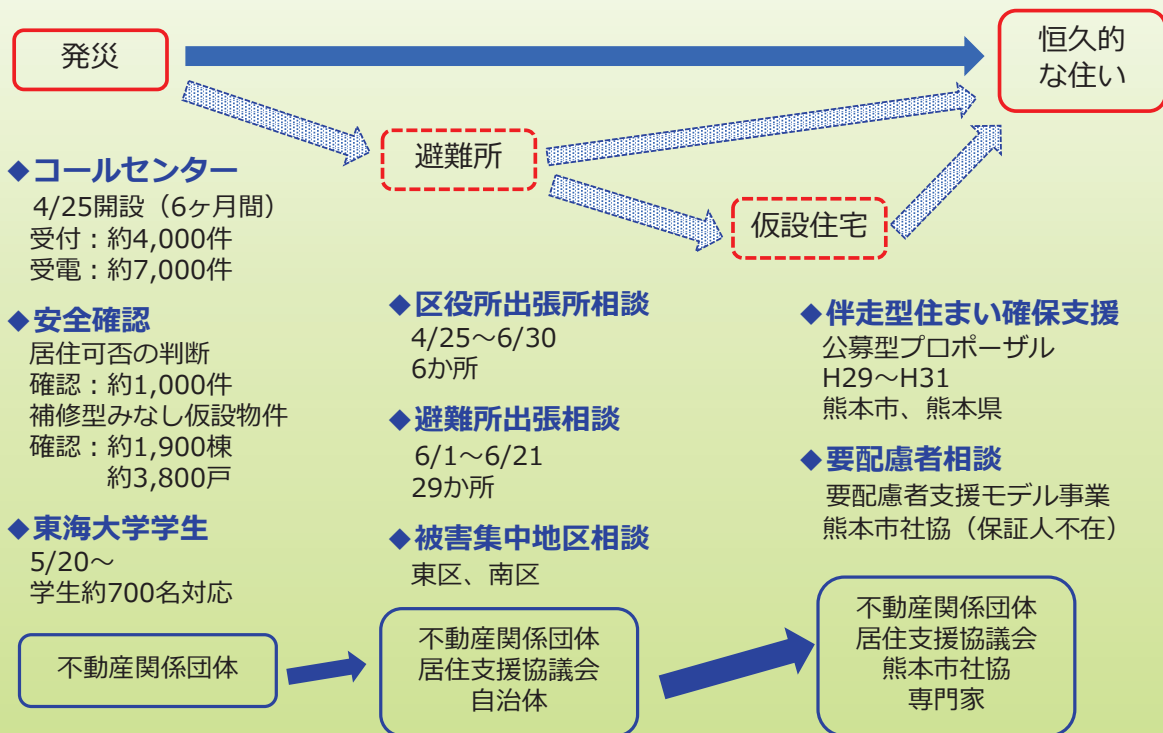
【課題】

- ・国、県との制度協議期間
- ・契約書作成期間
- ・制度を理解した人が不足
- ・総合的な相談体制整備
- ・現地仮設対策事務所設置

3

【災害時の居住支援協議会の活動実績】

2. 熊本地震時の対応 [4/14前震 4/16本震]



【災害時の居住支援協議会の活動実績】

2. 熊本地震時の対応 [4/14前震 4/16本震]



コールセンター



出張相談



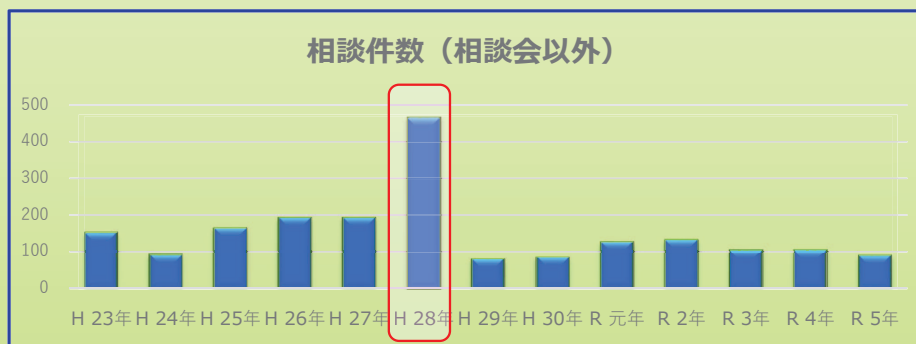
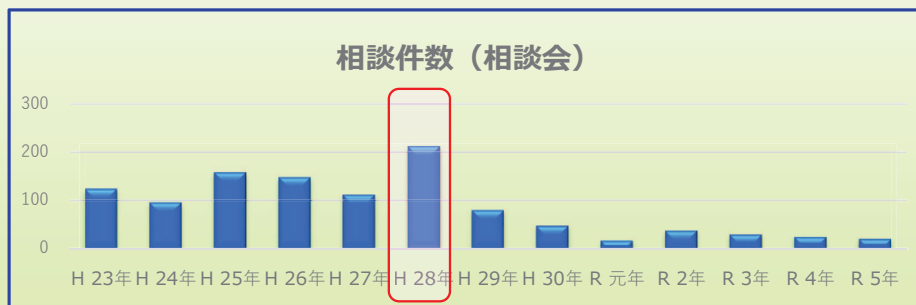
住まいの再建相談支援



伴走型住まい確保

【災害時の居住支援協議会の活動実績】

2. 熊本地震時の対応 【居住支援協議会の相談実績】

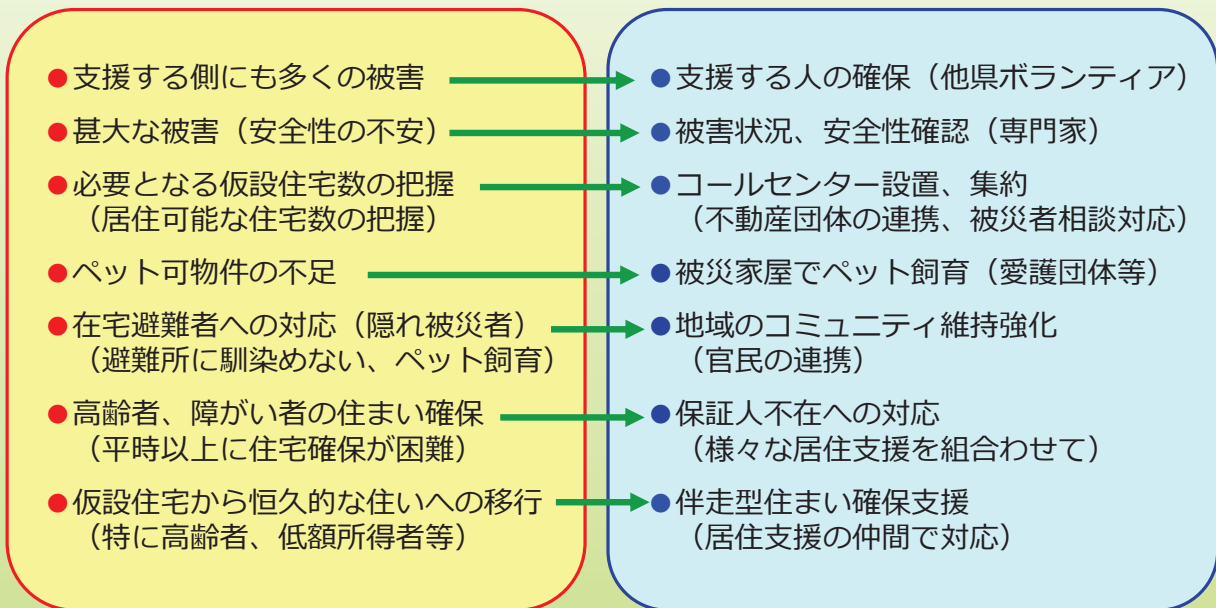


【災害時の居住支援協議会の活動実績】

2. 熊本地震時の対応についての課題

見えてきた【課題】

一つの【回答案】



【災害時に居住支援協議会の果たす役割】

1. 様々な被災者支援で行政や福祉関係者は手一杯

- 支援する側の行政職員、不動産や福祉関係者も被災
→ 被災地域で支援に携われる人員が圧倒的に不足
(業種毎に**他の地域から応援**する仕組みづくり)
- 通常と異なる未経験の業務フローが膨大で多種多様
→ 模索・相談しながら対応方法を探る
(自治体内部での経験者の登録や災害時の人員配置、他都市の支援経験)
- 避難所や仮設住宅、車中泊等様々な被災者の相談支援
→ 昼間は世帯主等が不在のため夜間や休日等の相談対応が必要
(多様な状況に合わせた**居住支援の仲間**で対応)
- 対処訓練では見えてこない様々な場面
→ 対処訓練で安心せず、対応に携わる仲間のネットワークを構築
(平時の業務に関わる災害対応について**協議会の仲間づくり**)

行政、不動産関係団体、福祉関係団体、居住支援協議会、居住支援法人等の**居住支援の仲間**の果たす役割がキーポイント

【災害時に居住支援協議会の果たす役割】

2. 災害時は住宅確保要配慮者が取残される

- 災害時の二重三重の住宅確保の課題への対応が必要
(**居住支援法人、不動産関係者、居住支援協議会の連携**が必要)
- 支援を行う居住支援法人等の活動を支える仕組みづくりが必要
(支援活動はほぼ手弁当であり、何らかの支える仕組みが必要)
- 在宅避難者（隠れ避難者）の把握と支援が必要
(**居住支援の仲間**がそれぞれの強みを活かして支援)
- 災害時は住宅確保において配慮すべき内容が重層化
→ 平時に想定される特定の単独分野では対応が困難
→ 平時の**居住支援の仲間**が協働で対応
→ 平時の業務スキームではないため、より一層の活動を支える仕組みが必要

【配慮すべき内容のケース数を試算】

①低額所得、②高齢、③障がい、④失業、⑤被災、⑥ペット飼育の6種類の場合組合せの数は**63通り**も考えられ、事前に全てのケースをマニュアル化は現実的でない。

(5種類で31通り、7種類で127通り、8種類で255通り)

→ その場で臨機応変な支援を行うためには平時の**居住支援の仲間**が協力し
その人それぞれの状況に寄り添った支援を行うことが重要

【災害時に居住支援協議会の果たす役割】

3. 被災者のコミュニティの維持、再構築

- 避難所から仮設住宅へ、仮設住宅から恒久的な住まいへの移行時の支援の連携
(それぞれのフェーズでの孤立化防止の支援が必要)

【居住地域】

(平時から地域の繋がり、コミュニティを醸成)

【避難所】

(避難者同士の協力や支援者によるコミュニティの醸成)

【建設型応急住宅】

(入居者選定方法によりコミュニティの維持・再構築)

【賃貸型応急住宅】

(新たな地域のコミュニティに参加、受入、支援者)

【自宅等】

(自宅に戻る人、戻らない人、戻れない人…)

→地域の人口減少、コミュニティが崩れる

支援の必要な人の把握には**居住支援の仲間**の存在が大きい

【災害時に居住支援協議会の果たす役割】

4. 災害時に居住支援協議会が真価を発揮するために

居住支援協議会の住宅や福祉に関する多様な専門家が同じ方向を見ることで
様々な状況の被災者へ寄り添った支援が可能

居住支援協議会会員の**居住支援の仲間**が被災者に
寄り添い、同じ方向を見て支援を行う

→ **共視**

※浮世絵や日本映画では
共視が多く描かれている



平時から多様な専門家が**居住支援の仲間**として、頼り、頼られ、相談し、相談できる
関係性を築くことで、災害時には協力し復興を共に創る一助となる

→ **共創**

★第1回地域価値を共創する不動産アワードで安全・安心部門で「優秀賞」受賞
(被災者支援で感じた「競争」から「共創」への転換、そして更なる活動の展開)
共創者：大家・不動産業者・社会福祉協議会・居住支援法人・地方公共団体 等

【災害時に居住支援協議会の果たす役割】

5. 災害時への備えの重要性（居住支援の仲間づくり）

- 多種多様な状況全てに対応できるマニュアルは不可能
 - ・多様で時間と共に変化する状況に応じた対応が必要
（多様な専門家がいる**居住支援協議会の仲間**）
 - ・大規模災害時は自治体の枠を超えた広域での協力体制が必要
（行政、民間に限らず広域的な平時からの**仲間づくり**、協力体制）
- 協定締結や防災訓練等で安心しない
 - 協力関係が出来ただけ、必要な協力、可能な協力は何か
（情報伝達訓練の先の具体的な対処訓練）
 - マンパワーの量と質
（経験者の退職や人事異動、支援者も被災、**平時からの仲間**を増やす）

仲間の平時の関係性強化で災害時には協議や対応がよりスムーズに

【災害時に居住支援協議会の果たす役割】

6. まとめとして最後に

- 協議会会員それぞれ個別の役割・貢献、というよりは
居住支援の仲間としての協議会全体の役割・貢献
（同じ方向を向いた個々の力が合さり、大きな力へ）
- 平時の住宅での暮らし、地域での暮らし、都市での暮らし方が
災害時にの安心な暮らしに繋がる
（地域や社会でのコミュニティの維持向上）
- 良き伴走者としての支援とは
対象者の想い、希望を共に考え、共に行動する
（無理に引っ張ったり、押したりせず）
- 集まれ！ **居住支援の仲間**
（本日ご参加の皆様 沢山の**居住支援の仲間**を創りましょう）

【私の居住支援の仲間の履歴】

H22 2010	H23 2011	H24 2012	H28 2016	H29 2017	R2 2020	R3 2021
<p>チャレンジ協働事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心住替え相談窓口 	<p>東日本大震災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みなし仮設住宅提供支援 	<p>九州北部豪雨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地相談窓口（みなし仮設） ・出張相談会（以降毎月開催） 	<p>熊本地震</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所、区役所相談 ・コールセンター 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物安全（居住可能）確認 ・被害集中地区での相談 	<p>令和2年7月豪雨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地相談会 ・コロナ失職者無償提供事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・住まい環境整備モデル事業 ・モデル契約条項普及協議会
<p>7月 熊本市居住支援協議会設立 （関係先20か所以上に説明）</p>						
<p>9月 熊本県居住支援法人連絡会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県下居住支援法人、居住支援協議会 						

行政（住宅、福祉、国際、経済）

不動産関係団体

居住支援団体（介護、老人福祉、障がい、子育て、困窮、外国人）

大学、地域

ご清聴ありがとうございました

